

ウッドデザインパーク株式会社

調査団体名	ウッドデザインパーク株式会社	団体代表者名	代表取締役 亀崎雄介
設立年	2018年	対応してくれた人の名前	杉浦寮子・鶴木純平
団体URL	http://wood-designpark.jp/		
活動拠点	岡崎市鍛埜町日面8番地4	調査員	手塚透吾・太田修・筒井信之
取材日	2018年12月11日	レポート作成者	手塚透吾

活動内容

ウッドデザインパーク株式会社は、ニッカブロックの見学やバーベキューや川遊びなどの体験を通して、自然を感じ、満喫できる施設を運営しています！

<レセプション・カフェ>

受付であるレセプションに入ると、まず見えてくるのはきれいな木製の装飾です。この装飾はニッカブロックというもので、ウッドデザインパークの母体となるニッカホーム株式会社が特許を取得している木製商品です。岡崎の森林組合が伐り出した三河スギの間伐材を用いて制作されています。一般的に壁や床に使用される木製タイルから進化しており、天井や装飾品まで幅の広い用途で使用可能です。ブロックの大きさや形は用途に合わせて異なり、壁面を立体的に見せます。このようなニッカブロックの展示を通して、木の素晴らしさと人が手を入れ間伐を行うことの大切さを発信しています。また、カフェではジビエ料理を提供しており、自然を体感しながらゆったりとランチを楽しむことができます。

<ツリーハウス>

施設内を観覧しているときに、特に目を引くのが三河杉の巨木を利用したツリーハウスです。2階部分にはソファが設置されており、宿泊利用者は巨木を目の前にしながら、ゆったりくつろげる空間となっています。元々吹き抜けとなっていた1階部分は、壁が増設され、自然を感じながら飲み物を楽しむことのできるラウンジとなっています。施設内は快適で楽しい環境を提供できるよう、常に進化を続けています。

<バーベキュー・川遊び>

ラウンジから続くテラスには、バーベキューセットが置かれています。「バーベキューセットは持っていないし、食材の調達も面倒！」という方には、器具も食材も用意してくれるバーベキュープランも用意されています。バーベキューの後には、近くを流れる川を感じて楽しむこともできます。

<グランピング>

ツリーハウスの横にはグランピングエリアがあります。グランピングとは、「グラマラス」と「キャンプ」という言葉が合わさって派生した言葉であり、キャンプの経験がほとんどない方でも気軽に、快適にキャンプを体験できる施設です。ウッドデザインパークのグランピング施設はきれいなトイレやお風呂、空調設備などが完備されているだけでなく、部屋の脇を流れる川の音がBGMとして流れており、ゆったり過ごすことができます。通常のグランピングよりも少しカジュアルな雰囲気があり、快適さの中に自然を感じながら宿泊できる空間となっています。

<その他のイベント>

春と秋に1回ずつジビエ(イノシシ・シカ)料理を提供しているお店の方々と一緒に、イベントを開催しています。

キャッチフレーズ

～日本の「木」のコト、遊びながら学ぼう！～ 国産杉を使った、木のテーマパーク

会社のモットー(何を大切にしているか)

お客様に木を感じ、自然を満喫していただくことです。グランピングは気軽に快適に自然を楽しむことができるため、女性グループの予約も増えています。また、岡崎の市街地からもアクセスがしやすい自然のテーマパークであり、これまで自然に触れる経験の少なかった方にも、自然の魅力を発信できる施設となっています。

もう一つとして、新しいことに常に挑戦していくことです。様々な経験を持つ人が集まっている会社であり、それぞれの人が異なる発想を持っています。それらの発想を取り入れ、思いついたらすぐに新しいことに挑戦しています。しかし、新しいことに取り組むと常に反省点はついてくるため、試行錯誤の毎日です。また、新しいアイデアを生み出すために、いろんな活動に参加することを心掛けています。

設立から現在に至るまで変化したこと

[2017年]ウッドデザインパーク(バーベキュー)運営開始→お客様がバーベキューをしながら自然と川遊びを始める
→グランピング施設の運営開始→[2018年]知多郡美浜町にウッドデザインパーク野間が誕生！
このように、常に変化し続けています！

連携している団体・専門家・自治体など

ニッカホーム株式会社(ウッドデザインパークの母体となる会社)

流域圏の担い手づくりに関わる具体的な活動

グランピングやバーベキュー、川遊びを通して山や自然の良さ、木の良さを伝えています。そして、子どもや若い人に自然の良さを感じてもらい、将来的に自然に関わりたいと思っていただけるよう努めています。

現在直面している課題

- ・自然の脅威(川の中州に施設があるため、大雨のときは音がすごい。野間の施設は海沿いにあり風が強い。)災害に関する知識が不足しているため、勉強が必要であると感じています。
- ・周辺地域の山の荒廃
地域で所有している財産区の山を手放すケースが増えています。山を手放すことで山が手入れされず、荒廃が進行しています。自然に関わる会社であること、また社員の一人が地域の寄合に参加していることもあり、危機感を持っています。

今後やってみたいこと

- ・やる気のある人の雇用:やる気を持って仕事に取り組みたいと考える仲間を増やしたいと考えています。
- ・グランピング施設の拡充:夏季になると忙しくなり、予約が取りきれないこともあるため、宿泊施設の拡充を行い、さらに多くの人に楽しんでいただきたいです。
- ・地域の活性化:いろいろな地元のお店や団体と連携して、マルシェなどを開催したいと考えています。
- ・災害時の支援:施設内にはアウトドアの機器が揃っていることもあり、災害時に被災された方の援助の場としてウッドデザインパークを提供したいと考えています。そのため、災害についての知識も深めていきたいです。
- ・木の価値を高めること:ニッカブロックを通して、木の素晴らしさを感じてもらいたいです！そして、様々なところでニッカブロックを使っていただきたいです。

そのためにはどんな情報・人脈が必要か

- ・簡易トイレの作り方など、災害時にウッドデザインパークに避難される方に情報共有をできるような備えをしたいです。(ライフハック等の情報収集)
- ・災害時にウッドデザインパークが使えるよ！と発信するためのツールを知りたいです。
- ・アウトドア業界よりも他の業界とつながりを構築し、新しいものを生み出していきたいです。

チームオリジナルの質問

<質問内容>馴染みのない土地で地域の人と打ち解けられたのはなぜですか？

<答え>ここまで来れたのは、社員の鶴木さんが寄合に参加するなどの小さな努力の積み重ねがあったからこそです！しかし、地域の人にやっと知ってもらえた段階であり、これからさらに関係を築いていきたいです。

<質問内容>情報の発信方法は？

<答え>基本的にはSNSです。最近ではテレビや雑誌の取材も増えています。

<質問内容>客層は？

<答え>家族連れなどもありますが、女子会の場になっており女性のお客様も増えています。男性グループでの利用もあるのでかなり幅が広いです。また、岡崎は関東と関西の間にあるため、各地から集まり宿泊する場にもなっています。

その他、伝えたいこと

○今後の展望

- ・昨年8月にオープンしたウッドデザインパーク野間は、海辺でBBQを楽しめる施設となっています。岡崎の山と川、知多半島の海を楽しむ施設ができており、愛知県の自然の発信に努めていきたいです。
- ・2019年の春に名古屋駅近くに出店を予定しています。里山の居心地の良さを都会でも伝えたいと考えています。
- ・元々旅館であった建物を宿泊施設として再利用していきたいと考えています。

写真



○ニッカブロックを使った照明



○ニッカブロックの壁



○ニッカブロックの壁



○グランピング施設 4棟



○4本の巨木に支えられた
ラウンジ



○BBQ設備も完備！



○グランピング施設内部



○ラウンジの2階でゆったり



○川や山など自然がいっぱい！



○庭には古風な建物



○猫もお待ちしております！